

ap bank fes

’06

**Environmental
Report**

はじめに

昨年、ap bank fes'05を開催するにあたって生まれた「eco-reso(エコ・レゾ)」という言葉があります。eco(環境)・resonance(共振/共鳴)という言葉のとおり、エコ意識の共鳴やつながりを表した言葉として、ap bank fesのテーマともなりました。

昨年のフェスでは、「eco-reso」というテーマのもと、おしつけにならない「おいしい」、「楽しい」から感じるエコをフェス会場で皆さまに感じて頂けたと思います。フェス以降、「ごみを分別するようになりました」、「なにか自分にできないかな」というようなメッセージが数多く事務局に寄せ、ap bank fes'05を「きっかけ」に「eco-reso」の輪が、6万人の来場者に広がっていたのだと実感しました。

今年は、「きっかけ」をつくることだけでなく、それによって「何かしたい」と思う人たちに向けて具体的なアクションの紹介もしていきました。「知ること」が「アクション」へつながっていると考えて、今ある環境問題や世界の問題を「自然との共生」「地球市民」「持続可能なエネルギー」の3つの切り口からパネルで紹介しました。また、それらの問題に対して、「今自分たちに出来る事」を紹介すると同時にワークショップも開催しました。ワークショップで、見て、聞いて、触って、実感したことが、フェスが終わった後も日常でのアクションにつながっていけばと考えています。

ap bank fes'06では、ごみ、エネルギーなどを中心に様々な環境への取り組みを行いました。この環境報告書では、会場で行なわれていた取り組みをひとつひとつ紹介していきます。あの、つま恋の空気を一緒に味わった人も、つま恋に来られなかった人にも、生活の身近なところから地球や未来へとつながる何かを感じていただけたらと思います。

ap bank運営事務局

contents

- 04 ap bankについて | eco-reso とは
- 05 ap bank fes について | つま恋について
- 06 フードエリア koti | Organic Foods
- 08 フードエリア koti | ap bank dialogue
- 10 フードエリア piha | Organic Foods & Eco-Products
- 12 フードエリア piha | 生産者とのつながり
- 14 フードエリア piha | Official Goods
- 16 フードエリア piha | eco-reso ブース
- 18 フードエリア piha | workshop
- 19 フードエリア piha | ap bank partners(融資先)
- 20 think waste | ごみのゆくえ
- 26 think energy | エネルギーについて考える
- 28 VOICE from STAFF | スタッフからのコメント
- 30 ap bank fes' 06 収支報告

ap bankについて

ap bankは、音楽プロデューサーの小林武史とMr.Childrenの櫻井和寿を中心にスタートした、環境にコンシャスなプロジェクト、自然エネルギー促進のためのプロジェクトなどに融資を行う市民のためのバンクです。金利は年1%、運営資金も自分たちで拠出する非営利組織です。2006年12月現在、44件のプロジェクトへ、合計1億4831万641円の融資を実行しています。

「eco-reso」とは

「エコ・レゾナンス(eco-resonance)」の略。
レゾナンス(resonance)とは「共鳴・共振」という意味です。人が日常でふと思うエコ意識、言ってみれば「気持ちよく、よく生きる」という意識を、どんどん共鳴・共振させて上げていこうという思いとか活動のことをさします。しかめっ面にならない。押し付けがましくならない。優等生にならない。もっと、人間であることに無理なく素直でポジティブなエコ意識。そういう意識こそ、ずっとその人の中につづけていける、そしてその人の周りの人たちにも広がっていけるものだと思うのです。ap bankは、環境プロジェクトへの融資活動、Bank Bandでの音楽を通じた活動、ap bank fesなどの全ての活動を通じて、ap bankなりのeco-resoを発信していきます。

ap bank fesについて

ap bank は融資活動だけにとどまらず、音楽を通じて、より様々な方法で未来を考えるきっかけを作っていきたいという想いで、2005年7月16日、17日、18日の3日間、静岡県掛川市「つま恋」で初の野外音楽イベント「ap bank fes'05」を開催しました。3日間で6万人を動員した「ap bank fes'05」には、ap bankの思いに共感してくれた15組のアーティストにご出演いただきました。ライブエリアとフードエリアからなるイベント会場には、さまざまな環境への取り組みを行ない、“音楽を通して感じるエコ”と“食べ物や生活環境など日常から触れて感じられるエコ”を来場者の皆さまに紹介しました。そこで得た実感や、試行錯誤のなかで浮かび上がった「ホスピタリティ」、「人と人のつながり」、「ガラス張り」というテーマと、自然発生的なエコ意識の連鎖・共鳴をイメージした「eco-reso」というメッセージのもと、2006年の「ap bank fes'06」は開催されました。思いはさらにつながり、今年は、3日間で7万5千人のお客様と18組のアーティストの方々にご出演いただきました。

つま恋について

静岡県掛川市にある「つま恋」は、東京ドーム約36個分の広さ(55万坪)で、豊かな自然とスポーツ、そして音楽を楽しめる滞在型リゾート施設です。日本のほぼ中心に位置することから、豊かな自然に恵まれています。そこには、536種類の植物と、14科47種の鳥類、3目3科4種の哺乳類、8科10種類の両性・爬虫類、61種の昆虫類が生活しています。環境省レッドデータブック(2000)^{*1}に登録されている貴重種・注目種のオオタカ(鳥類)、クロヤツシロラン(植物)なども確認されています。人の生活と自然とが共生する里山のスタイルがそのままのリゾート施設です。

*1…環境省レッドデータブックとは、日本の絶滅のおそれのある野生生物をまとめたもの。自然環境研究センターから、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック-」として、分類群ごとに書籍の形で全6冊が刊行されており、一般の書店でも購入することができます。



Organic Food

food area kotri

フードエリア kotri

Organic Foods

ap bank fes'06では、来場者の方々が1日中楽しめるように、「食べ物」にもこだわりました。

「体にも環境にも負荷の少ない素材」を使った料理というハードルを超えて多くの方々が出店して下さいました。

去年が飲食出店初挑戦となったap bankの融資先の方々も、さらに趣向をこらしたメニューで挑戦して下さいました。

フードエリアkotriでは、31店舗の飲食出店が展開されました。

美味しい食事は、体だけでなく、心までも満たしてくれました。

オーガニックフードエリアkotri

飲食出店店舗／メニュー一覧

●kurkku <<< kitchen& cafe
(ap bank fes'06 オフィシャルキッチン)
キーマカレー／きゅうりの冷たいスープ／夏野菜の赤味噌ラタトゥイユ ほか

●農業生産法人(有)えこふあーむ
(ap bank 融資先)
低添加・放牧げんき黒豚ソーゼージ ほか

●野田塩ペコの道
(ap bank 融資先)
野田塩ラーメン／野田塩べっこう飴／ビール ほか

●カフェスロー
お豆のタコライス／麻物語ビール／のり塩むすびセット ほか

●ORGANIC CAFE LOHAS E-LIFE
豆のお肉のガンボカレー／大豆ミンチのタコライス／ビール ほか

●ケフィアのみまごのかぶちゃん農園
そば／目玉焼き／発酵玄米白米ミルク ほか

●natural & organic ECRU
とうもろこしご飯のヘルシースタミナ丼／玄米冷汁丼 ほか

●KUMINSOUL
ベジタブルスープカレー／オリジナルピリヤニ(ビーフ) ほか

●山のハム工房 ゴーバル
炭焼きフランク／炭焼きチリソテー／ナンフランク ほか

●バミューダ
ミートライスボール／冷製パスタ／かき氷 ほか

●NAP JAPAN
ケバブサンドイッチ／クスクス／シシケバブ ほか

●ドロップキック
そうめんの冷製フォー／豚肉納豆炒めごはん ほか

●クインシーバ
チキンと有機野菜のクスクス／キャサバコロッケ／チキンとオクラシチュー ほか

●創作ぶっかけ讃岐うどん
創作ぶっかけ讃岐うどん

●韓国ソウル屋
ダッカルビ丼／キムチチャーハン／豚串 ほか

●インド料理マハッタ
ベジタブルカレー・ナン／タンドリーチキン／アイスチャイ ほか

●白猫堂
ゴーヤちゃんぶる丼／マーボ豆腐丼／パスタ ほか

●WATAMI /ワタミファーム
有機野菜のピピンパ／とうもろこし／アイスクリーム

●タコデリオ
タコライス／ナチョス／かき氷 ほか

●大地を守る会
岩手県産「いわて山形村短角牛」／かき氷／グリーンティ ほか

●Cafe Pitwu
豆乳バナナジュース／オーガニックココア／無農薬コーヒー ほか

●ミスターケバブ
ドネルケバブ／インドカレー／ケバブライス ほか

●Egg Rainbow
ロコモコ丼／フレッシュトマトのハッシュドカレー ほか

●CANTIK
マンゴーソフトクリーム・フラッペ／完熟マンゴー・カップ ほか

●La Terre
香港風デザートスープ／あんしんジェラート／フレンチクレープ ほか

●Daizawa FOODUARY
スパイシーカレー／キーマライス

●菜根譚 野菜工房
薬膳カレーライス／アセロラジュース／まるかじり新鮮野菜 ほか

●麻こころ茶屋
ベジ担麺／マコス／麻の実コーヒー ほか

●石窯パンの専門店 ダーシェンカ
石窯パン袋詰めセット／オーガニックジュース

●POD ボラン広場の宅配
ベイクドハム・ソーセージローストチキン／丸かじり冷やし有機トマト ほか

●豆乳どーなつ heart Reaf
豆乳どーなつ(プレーン)／豆乳どーなつ(黒ごま)／オーガニック豆乳ジュース ほか

トイレナビゲーション

ap bank fes'06では、日本トイレ協会によるトイレナビゲーションが行なわれました。これは、混雑する野外イベントのトイレがスムーズに使えるように、お客様を誘導したり、トイレの配置を考えたりするものです。これによって、ap bank fes'06の会場ではトイレの列に対するストレスが大幅に緩和されました。また、各フードエリアにエコトイレを導入しました。フードエリアkotriには、汚水を物理・生物処理の後、オゾン装置にて脱色・殺菌し、洗浄水として循環させる「循環式のトイレ」を設置しました。水を外部に排出しないので、通常の100分の1の量に水の使用を押さえる事ができます。また、フードエリアpihaには、大便をオガクズや蕎麦殻と混合し微生物の働きで分解して、小便を液肥として活用する「コンポスト型トイレ」を設置しました。トイレを通してできるエコロジーに多くの方が関心を持っていました。



女性に人気だった「コンポスト型トイレ」



フードエリア koti

ap bank dialogue

ap bank fes'06のフードエリア kotiでは、7月16日、17日の2日間、ap bank dialogueと題したトークショーが行われました。

前半、GAKU-MCのMCによって迎えられたのは、ap bankの代表理事であり、ap bank fesの主催者である小林武史。

今年のap bank fes'06をどのような想いで迎えたのかを話しました。

後半には、環境問題や世界の問題に対して様々な活動をされている方々をお招きし、

その活動や想いについてお話し頂きました。

彼らの言葉には、ひとりひとりに出来る事を考えるヒントが沢山つまっていました。ここでは、その一部を紹介いたします。

7/16



鬼丸昌也 | テラ・ルネッサンス代表

カンボジアでの地雷の除去の支援と、アフリカのウガンダという所で子ども兵たちの心の傷のカウンセリング、あと職業訓練の学校をやっています。僕にとってみれば、カンボジアの地雷のことやウガンダの子ども兵のことは、もともとあまり境目がなかったような気がするんですね。結局、一人の人を愛せない人が他の人を愛せないのと同じように、目の前の人にどれだけ関心を持てるのかということなのかなって感じがするんです。

だからきっかけは何でもいいと思うんですよ。なぜかと言うと、一人の人がひとつのことに関心を持つということって、すごい大きな力を持っているからなんです。だって好きな人ができたら、四六時中その人のことを考えるじゃないですか。地球の問題も身近な問題もそれと一緒になんです。だから、自分はこれは好きなんだ、これをやりたいんだと思うことを、ひとつだけでもいいから見つけてもらえれば、それだけで充分じゃないかなと思う。そして、何か心を動かされることがあったら、どうぞ隣の人に伝えてく

ださい。マザー・テレサの言葉で「愛の反対は無関心」というのがありますが、無関心なことが一番僕は問題じゃないかなと思うんですよね。だから、一番大切な人に伝えてほしい。だってそこから人は変わることができますからね。

小野寺愛 | PEACEBOAT

ピースボートは年に約3回ぐらい地球1周の船旅を企画している団体で、私はそこでだいたい20カ所ぐらい地球のいろいろな所に行くんですけども、そこでスタディーツアーをコーディネートしたり、船内でトークショーやワークショップを企画したりすることを仕事にしています。私も初めは参加者でした。もともとバックパックで旅するのが好きだったので、もうこれは行くしかないと思って行ったのが大学のときです。

大学の最後の年に地球を2周したんですが、それによって世界中に友達ができたくんです。世界に友達ができただけで、世界の人たちがお金じゃないところでどれだけ豊かな生活をしているかを知ることができたり、世界の人たちと私たちは繋がっているということを実感できたりしました。そうすると、例えばパレスチナのニュースなどが新聞にいつも小さく出ていますけど、「パレスチナで人が何人死にました」という、その「何人」という情報だけでは足りないと思うようになりますね。そこは友達がいる場所だから、どういうことが起きているのか、もっと知りたいと思うようになる。世界に友達ができただけで、私自身の人生は変わったと思います。すごいふうに。

一青窈

私の活動は、詩を書いて、たくさんの人に思いを届

けることです。いろいろな事実と直面したときに、どんな表現で伝えられるかというもののひとつに「詩」があるし、「歌」があります。去年もこのap bank fesに参加して、そこでの経験がひとつのきっかけになって、カンボジアの今を見に行こうと思いました。そうやって、自分自身の中でレゾナンスが起こったんです。そしてカンボジアに行って、現地の人たちと触れることでまた感じるものがあって、それが今年のフェスで発表した新しい歌にもなりました。「世界」に触れることって、そんなに意気込まずに、ちょっとしたきっかけでできることだと思います。「あ、何となく休みができたから行っちゃおうかな」という、そういうノリでいいと思う。そうやって行動を起こすことで、一歩進んだ気になれると思うんです。

retired weapons | 徳田祐司 | アートディレクター

「retired」というのは、日本だと「辞める」とか「引退する」という非常にネガティブなイメージがあるんですが、しかしヨーロッパでは「リタイヤする」ということはすごくポジティブな発想なんです。早く自分の仕事を終えて、家族と一緒に過ごす時間を大切に、自分のやりたいことを始める、というようなことを「retiredする」と言ってるんですね。僕らが作っているアートは、「火器から花器へ」という言い方をしているんですが、何かを傷つけたりするための「武器」という第一の人生は、もっとこういふふうに変えると花を生ける花瓶になる。前向きな考えによってこういう楽しい人生になるんじゃないかという、ポジティブなそのアクションというか考え方というのを「retired」という言葉の中に入れてるんです。

で、このような作品を「かわいい」とか思ってくれるとき、この「楽しい」とか「格好いい」とか「かわいい」とか、一番最初に感じる印象というのは実は一番大事なんだと思うんですね。いきなり環境破壊とか戦

争の話って、確かに知れば知るほど重く難しい話になるんですけど、でも最初は「楽しい」、「かわいい」でいいから興味を持ってほしいなと思う。そうしないと、多分、本当の解決にはなっていないんですよ。義務で問題に取り組んでしまうと、どうしても難しくなるんです。だから、「楽しいこと」、「嬉しいこと」、「悲しいこと」、「面白いこと」、そういう感情のすべてを日々、感じ取ってほしいと思うんです。

retired weapons | 石川淳哉 | プロデューサー

まずこの会場に入って来たときにすごく感じたんですけど、何か共鳴しているエネルギーみたいなものを感じたんですね。僕らは僕らができる範囲のことしかやれないし、自分が得意なところで表現をしています。この会場にいる人たちも、それぞれ強い信念を持っていたり、小さいかわいい信念があったり、志の芽生えが生まれていると思うんです。そういうことを友達に話すことから始めるのもいいし、いろいろな形で自分のやり方を見つけていって、繋がっていただけいいなと思います。

それから、日常の中に少しずついいからポジティブなイメージを持つというのもいいと思います。朝起きて3秒ぐらい平和のことを考えて一日をスタートする。それを習慣として採り入れたら、ずいぶん変わるんじゃないかと思う。3秒の積み重ねは膨大な時間になると思いますからね。

7/17



大橋マキ | アロマセラピスト・ライター

アロマというのは植物から採れる物なので、例えば環境変動があったりすると、その原料である植物が採れなくなったりするんですね。ニューオリンズで洪水があったときはグレープフルーツのアロマも値段が上がりました。北アフリカで干ばつがあれば、ゼラニウムが採れにくくなったりもする。そういうわけ

で、私はアロマを通してエコロジーというものに興味を持つようになりました。

先日、埼玉県の旧芝川という川の清掃作業をしたんです。ご近所の生活排水がそのまま流れていて川はヘドロだらけだったのですが、地元の人たちが立ち上がってヘドロを掘り、浄化のしくみを作ったりして、今ではカワセミが戻って来たりしてるんですよ。さらには、この先子どもたちが裸足で入って遊べるような川に戻そうという計画を立てているんです。実際に自分でどれだけそのヘドロが自分たちの生活によって生まれてしまったのかを感じることで、その経験を通して、天ぷら油を使った後にそれを台所のシンクにそのまま流すのではなく、新聞紙で吸い取って燃えるゴミにすればいいとか、洗剤やシャンプーもあの川に流れていくと思えば、何を使おうか、何を買おうかという、生活における行動の一つ一つを考え直すことができるんですね。

私たちは消費者として、「買う」ということで世の中に役立っていますから、その買うという行動が、また次の気づきまで広がっていくんだと感じます。私たち買う側のできることってとても大きいんですよ。一人一人は小さいかもしれないけど、「買う」「選ぶ」って大変な権利ですよ。そういうアクションが大切だと思うんですね。

篠健司 | パタゴニア

アウトドアスポーツのすばらしさというのは、その自然のすばらしさを感じることができるとことだと思えます。山に入ったりサーフィン行ったりする方たちは、だいたい同じポイントに行ったりしますから、そうやって同じ場所に入っていくうちに自然の変化を感じることができるようなんです。例えば海にテラポットが入ったりするとそこでは波が変化しますし、上流にダムができると砂が運ばれなくなって地形が変化します。そう自然の変化にすごく敏感になってくるんですよ。ですから、アウトドアをすることによって、自然とのつながりをリアルに感じたり、今ここで生活していることがいかに環境に影響を与えているかということを知るには、やはり自然の中に出ていって遊ぶことが大事なんじゃないかなといつも本当に思います。パタゴニアの合い言葉は「言葉よりも行動」なんです。やはり言葉だけではなくて行動を起こそうよというのが、僕らのモットーです。そういった意味で、どういったアクションが取れるのかというのを、アウトドアスポーツを通じてこれからもお伝えしていきたいと思っています。

平野義孝 | トヨタ自動車株式会社

私たちは車という、環境に対してあまり優しくないも

のを作っているの、だからこそ、いかに環境に対して優しくできるか、自然と共に生きていけるか、ということも考えているんです。つまり、単にハイブリッドカーが燃費がいいから環境にいいということだけで、技術開発を進め、ハイブリッドカーを作って出す、という、そういうことだけはダメだと思っているんです。

例えば、「緑の中で思い切りアクセルを踏むときに、あなたならどんな車のアクセルを踏みますか?」と訊ねられたとしたら、「やっぱり気持ちいいのがいいよね」とみんな答えると思うんですよね。そういう車に乗って感じていただけることは、多分、みなさんがロハスを実践したり、自然の中に行ったときに感じる嬉しさと共通するものだと思います。だから製品を作ることだけではなく、それを運転する、「人」のことを考える。その人たちが「自然と共に生きる」ということを実感できたり、環境というものをどう受け止めて考えているかということ、真剣に考えていくような意識改革が、環境に対してそんなによくない物を作っている我々だからこそ、大切だと思っています。

森本言也 | 日本自然保護協会

全国に自然の問題はたくさんあります。だいたいは地元の人たちからSOSが来るんです。このままでは故郷の森がなくなる、海がなくなる、だからそれを守る活動を応援してほしい、と。そのSOSに応じて出かけて行って、まずそこにはどんな自然があるのか、何が起きそうなのか、どうなりそうなのかということ、科学的に調査をして問題を解決していくというのが、私たちの活動の大きなひとつなんです。そしてもうひとつの活動は、まずは身近な自然を見に行きましょうというもの。生き物の名前をお勉強のように覚えるのではなく、まず生き物と生き物との繋がりを、自然の特徴を楽しく感性で味わっていく。そうすると何が起きるかという、地域の自然のファンが増えるんですよ。ファンが増えると、その自然を大切にしたいと思う人たちが増えていく。この、身近な自然に触れることのおもしろさを感じることはとても大切だと考えているんです。「自然を好きになってください」とか「大切だ」なんて押し付けるのではなく、まず最初に「自然に親しむ」「ちょっと遊びに行ってみない?」とか「ちょっと見てみない?」ということを進めていくと、だんだん知りたくなっていった、好きになっていった「ああ、自然はあった方がいいな」と思うようになる。そういう気持ちを広めていくことが、自然を守ることの重要な一歩だと思います。

food area piha

organic foods & eco-products

フードエリア piha

Organic Foods & Eco-Products

私たちの生活で毎日使うもの、食べるもので誰がどこで作っているものなのかわかるものは多くはありません。フードエリア piha では、職人が思いを込めて作った雑貨、環境に配慮してつくられた雑貨、途上国の人々が手作りで作った雑貨を公正な対価で購入するフェアトレード雑貨など、作り手の顔やストーリーが見える雑貨を販売する23店舗が出店しました。また、有機食材の生産者や融資先による飲食出店も7店舗が出店しました。



オーガニックフードエリア piha

雑貨出店一覧

●kurkku <<< shop: 雑貨・書籍・植木用品
(ap bank fes'06 オフィシャルショップ)
Tシャツ、手拭い、アロマキャンドル など

●スローウォーターカフェ:
エクアドルのフェアトレード雑貨・エコグッズ
(ap bank 融資先)
エクアドルインタグコーヒー、森のお守り箸、カプアエコバック など

●ピープル・ツリー:
フェアトレードグッズ・衣類・食品
(ap bank 融資先)
エコメッセージTシャツ、カラムカリ・バンドナ、キャミソール など

●愛犬のエコショップ・わんのはな:
エコ雑貨・犬グッズ
昔ながらの蚊よけ線香、介助犬チャリティTシャツ、ドットわんごはん など

●エコ雑貨倶楽部: エコ雑貨・竹製品
T-シャツ(竹布)、タオル(竹布)、アレポの石鹸 など

●FHCY アジア 障害者パートナーズ:
タイの障害者による手作り品とタイ南部雑貨
ココナッツボウル、布製キーホルダー、草木染め衣類 など

●メイド・イン・アース:
オーガニックコットン製品と天然石鹸
バスタオル、Tシャツ、布ナプキン など

●オークヴィレッジ: 木製グッズ
循環グッズ・ストラップ、ドングリ貯金箱 など

●がんこ本舗/wafa: 洗剤を中心とした雑貨
生分解する洗剤、海をまもるがんこクロス、wafaのカンパ など

●ぐらする一つ: フェアトレードグッズ
ネパールのニット帽、Tシャツ、アフリカン楽器 など

●クラフトリンク南風〜シャプラニール〜:
南アジアのフェアトレードグッズ
天使のガーゼシャツ、ろうけつ染め巻きスカート、エコバック など

●ecomarket: エコ雑貨

1000回使えるコーヒーフィルター、Tシャツ、クレヨン など

●栃木レザー株式会社:
植物タンニンなめしの革を使った製品
ウォレット、エコ革CDケース など

●chahat: ヘンプ雑貨
Hemp Ball、Tシャツ、ショーツ など

●ネパリ・バザーロ:
ネパールのフェアトレード商品
ネパールカレースパイス、ネパールコーヒー、コットン刺繍バック など

●HIMALAYAN MATERIAL:
ヒマラヤンヘンプ素材を使った雑貨
ヘンプの手編みハット、天然石+ヘンプのアクセサリ など

●帽子専門店 SIGN:
オーガニックコットン、古着を使用した帽子
オーガニックコットン帽子、古着リメイク帽子 など

●ボディクレイ: 粘土石鹸、ナチュラルコスメ
ねんどの入浴剤、ねんどのソープ など

●Renature: ヘンプ雑貨、ハンドメイド雑貨
ヘンプTシャツ、ヘンプネックレス など

●ロゴナ: ドイツのナチュラルコスメ
サンプロテクトローション、ワイルドローズ・クレンジングミルク、メイク製品 など

●ワイルドツリー:
蜜蝋キャンドル、ナチュラルコスメ
ミツロウキャンドル、ティーライト、ランプ など



オーガニックフードエリア piha

ap bank fes'06を サポートしていただいたブース

●パタゴニア

ap bank fes'06のスタッフ用TシャツをオーガニックコットンTシャツでご提供いただきました。肌触りのよいTシャツでスタッフは一日快適に仕事をする事ができました。ブースでは、パタゴニアが環境への取り組みのひとつ、自然環境の保護や回復のために売り上げの1%を利用する「1% for The Planet」の仕組みを紹介されていました。

●トヨタ白川郷自然学校

自然体験、環境教育、伝統文化を楽しみながら知ることが出来る岐阜県の白川郷にあるトヨタ白川郷自然学校についてのブース展開。「自然体験プログラム」や自然との共生をテーマにした様々な「共生プロジェクト」などが紹介されていました。

●掛川市環境ブース

ap bank fes'06の会場であるつま恋のある掛川市が主催したブース。掛川市がどのような自然環境にあるのか、どういう体験ができるのかなど、掛川市の特徴を様々な紹介していました。



フードエリア piha 生産者とのつながり

「つくること」と「食べること」 大地を守る会

消費と生産は、反対の意味を持つ言葉ですが、消費することが生産者を支えることになり、生産の現場をかえることができます。都市生活の中では、生産地である田畑の様子を見る事はできませんが、手に取る野菜を選ぶことで、生産者とのつながりすることができます。

『大地を守る会』は「農業の危険性を100万回叫ぶよりも、1本の無農薬の大根を作り、運び、食べることから始めよう」をコンセプトに1975年から活動をしています。1977年に生産の現場と、消費の現場のパイプラインとして物流組織をスタートし、現在では、約2500人の生産者会員から届

く、無農薬・有機の野菜や、食品添加物などを使用しない安全な食材などを販売しています。ap bank fes'06では、フードエリアに飲食出店して頂いたほか、食材調達が困難な飲食出店者に対して、食材の手配や販売などにご協力頂きました。ap bank は2006年6月に、大地を守る会の生産地のひとつ、倉渕村(群馬県)に行ってきました。お話を下さったのは、有機農業をはじめ10年という和田さんでした。和田さんはもともと『大地を守る会』の職員で、仕事として訪問した倉渕村にひかれ、会社を退職し、10年前に就農しました。この村は、村全体で有機農業の勉強会や、野菜の品目別の部会を開き、地域ぐるみで有機農業を支えています。そのため、和田さんのような、新規就農者も多く、現在で23組の就農者が村外から入村し、この村で農業を営んでいます。有機農業は、土作りから始めるため、数年間は生産が安定しないことが多く、そうなると収入も安

定しません。そういうときに、『大地を守る会』のような買い取り先があったということが、いままで有機農業を続けてこられたことにつながっているのだと、和田さんは教えてくれました。フードエリアで手にした一皿の中に、何種類の野菜が入っていたでしょうか？ それぞれに、その「美味しい」を作った人たちがいます。どんな人がどのようにつくったのかを意識して食べることで、次の「美味しい」をつくることにつながっていくのかもしれない。



地元の味を地元で まいど市&楽農会

『地産地消』という言葉があります。地域でつくられたものをその地域でいただくという食のスタイルを意味します。ap bank fes'06では、2回目の静岡県での開催にあたって、地元の方とのつながりを考えました。

ap bankの融資先で、静岡県榛原市で無農薬のお茶の栽培と平飼い養鶏を営んでいる大石和央さんからのご紹介で、『まいど市&楽農会』の石樽由美子さんと出会ったのは、2006年の3月のことでした。石樽さんは、掛川市で無農薬・有機栽培／販売を営む個人生産者グループの1人。掛川市にあるいくつかのグループにお声がけ頂き、

そのメンバーの方々と一緒にap bank fes'06にご協力いただきました。

石樽さんのグループは、掛川市内に農園スペースを借りて個人農園を営んでいます。都市部への出荷が主な目的ではなく、環境保護の重要性や、循環型社会の必要性を感じた地元の方が「自給自足」の実践の場として、無農薬・有機野菜の栽培をしています。手が入られなくなって荒廃していく農地や、就農者の減少といった深刻な事態に対して、石樽さんたちが自力でできることを実践するということから、「自分にもできる」という実感が、多くの人に伝わるようにと、活動を続けています。

毎週土曜日には、掛川駅北口近くの天然寺の駐車場で『まいど市』という朝市を行なっています。石樽さんたちは、そこで地元の人々に、作り手の顔の見える安全な食材を販売しています。そこでは、地元の人々も、安心して食材を購入すること



が出来ます。『地産地消』とは、新鮮な食材が手に入ると同時に、信頼できる生産者から安心して食材を買う事も意味するのです。ap bank fes'06では、『まいど市&楽農会』としてご出店いただき、しそジュース、梅ジュース、野菜の丸かじりなど販売していただきました。また kurku kitchenなどの他出店者への食材提供にもご協力いただきました。食を通して、人を通して、同じ思いを共有できること、これも1つのeco-resoだということを実感しました。



フードエリア piha Official Goods

ap bank fes'06 の志は、
オフィシャルグッズにも活かされています。
環境に配慮したエコ素材を選び、デザインは、
ap bank の活動に共鳴してくれたデザイナーたちが
それぞれにメッセージを込めてくれました。



ap bank fes'06 Tシャツ(全6種類)

高級糸の製造には短い繊維を取り除いて長い繊維のみを束ねていく工程があり、この際に約20%の繊維が落ち綿として発生します。オフィシャルTシャツの素材は、この落ち綿をほぐし一本の長い糸にして作ったリサイクルコットンを使用しました。資源を大切にしたいという想いから生まれたエコロジー素材の上、高級綿の落ち綿を使用した糸なのでやわらかく、ドライタッチなTシャツとなりました。

1 eco-reso Tシャツ(オリジナル) 丹下紘希デザイン



2 eco-reso Tシャツ(自然との共生) 伊藤桂司デザイン



3 eco-reso Tシャツ(持続可能なエネルギー) 片岡良輝デザイン



4 eco-reso Tシャツ(地球市民) GROOVISIONS デザイン



5 to U Tシャツ 丹下紘希デザイン



6 ap bank fes'06 Tシャツ 森本千絵デザイン



※1~4のeco-resoT-シャツの売り上げ5%は、「自然との共生」「地球市民」「持続可能なエネルギー」の3つのテーマを切り口に、現在ある問題やこれからの可能性を探る情報発信のためのメディア制作と運営に役立てていきます。
www.apbank.jp/ecoreso

ap bank fes'06 タオル

このタオルは、通常使われる綿の花の部分ではなく、「コットンリッター」と呼ばれる綿花のタネを包む綿毛を刈り取り、つむいで繊維にした素材を使用しました。通常、捨てられてしまう部分を使用して、資源の有効活用をしています。



ap bank fes'06 エコバック

何度でもリサイクルが可能な「ケミカルリサイクル」という技術で廃ペットボトルをポリエステル原料にした、エコロジー素材のエコバック。小さく丸めて、どこにでも一緒に持って行ってもらいたいバックです。使いやすさを追求してポケットや、取っ手の形などにもこだわりました。ごみの削減のためにも一役買っています。



ap bank fes'06 キャップ

生地部分に再生PET65%のポリエステルを使用したエコキャップ。ペットボトルが再生されてキャップへ生まれ変わりました。ap bank fes'06をイメージしたポップなイラストのワッペンが付いています。



ap bank fes'06 オフィシャルパンフレット



ap bank fes'06を行なう小林武史と櫻井和寿の想いをきいたインタビュー、出演アーティストたちのメッセージ、またap bankの仕組みやビジョン、融資先の紹介のほか、ap bank fes'06の環境の取り組みなどを知るコンテンツが盛りだくさんの一冊となりました。また、内容だけでなく、本としての作りそのものにもメッセージをこめるために、印刷工程や紙にもこだわっています。インクは「再生植物油インキ」、印刷は「水なしオフセット印刷」、製本はリサイクルしやすい「難細裂化ホットメルト」という技術をつかった無縫綴じを選びました。また、紙は、私たちの生命の源である「森」を守り、育てるために必要な間伐によって切りだされた木によって作られた「間伐紙」を全ページに使用。この紙を使う事で、見ても触っても森のやさしさを感じる事のできる一冊となりました。

フードエリア piha eco-resoブース

自然との共生



ap bank fes'06では、「自然との共生」「持続可能なエネルギー」「地球市民」という3つのテーマが設けられました。それらの

テーマに基づき、ap bankでは、事前に様々なNPO/NGOの方々や、学者の方と一緒に勉強会を重ねました。今、世界ではどんな問題がおこっているのか、そしてそれに対して私たちはどのようなアクションをとれるのかを話し合い、フードエリアの「eco-resoブース」にてパネル展示を行いました。そこに集まった来場者たちは、知ることから、自分の生活する地球を感じ、アクションの第一歩として今の自分にできることを読み取っていきました。ここでは、パネルの内容を要約したものをご紹介します。



例えば……、

- 1 自然と生き物との繋がりを感じるために、自然

人間は本来、自然を畏れ、そして自然に生かされて生活していました。自らも自然の一部であることを、私たちはかつて当たり前感じていました。しかし科学が進歩するに従って、人々の暮らしが便利になった分、地球上の自然は人間によってだんだん壊され、失われてきています。このテーマは、もう一度、私たちが自然とともに生きていることを意識し、自然とともに生きる中で感じる本当の豊かさを生活に取り戻すために、今、私たちができることについての提案を描いていきました。

にまずは触れてみよう、日本各地で行われている自然観察会、エコツーリズムの紹介。
 2 普段食べている食べ物も自然の恵み。「食べることで自然との繋がりを感じるために、海や山や川で育つ牡蠣、牛、鮎が、どのように自然の生態系と関わっているかを紹介。
 3 日本にはかつて、人間の生活と自然が結びついた「里山」という文化。この「里山」のしくみから、これからの循環型の未来に必要なものを見つけよう。

持続可能なエネルギー

今、日本で供給されているエネルギーの割合を示してみると、石油から生まれたエネルギーが大半



を占め、順に石炭、天然ガス、原子力、水力となり、太陽光や風車などの持続可能なエネルギーはたった3%しか使われていないことがわかります(2004年/資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」より)。生活は向上し、消費電力も上がっている現状の中、今までのようなエネルギーの使い方をしていくのでしょうか、それとも、持続可能な自然エネルギーを使うことを選ぶのでしょうか。ここでは、そのどちらを選ぶかで未来が変わるということパネルとして見せていきました。

例えば……、

- 1 枯渇するエネルギーを獲得するための国家レベルでの「石油資源を巡る戦争」を起こしていることを知る。
- 2 チェルノブイリ原発事故がもたらした悲劇を紹介。
- 3 現時点で55基の大型原発が運転中の日本。それによって使用済み核燃料や放射性廃棄物がどれだけ出ているのかを紹介。
- 4 二酸化炭素の排出による地球温暖化問題はそのまま進むとどうなるのか。
- 5 ドイツ、デンマーク、スウェーデンなど、国や市民のレベルで風力発電・バイオマスエネルギーなどの促進に力を入れている国があることを紹介。
- 6 日本にも市民の出資による風車が増えている。太陽光発電やバイオマス発電、海洋エネルギー



ーなど、地理的、地形的条件は地域ごとに異なるからこそ、地域の特性にあったエネルギーを選んでいける。

- 7 グリーン電力証書のしくみを知り、購入することで自然エネルギーを自分の家で使うことができる。
- 8 一人一人の小さな力が大きな力となる。省エネの工夫や省エネ家電の買い替えなど、私たちが簡単にできることを紹介。

地球市民

「市民」とは、社会の一員として責任を持って行動する人のこと。「地球市民」とは、その意識・行動を世界規模まで広げて感じてみる。そうすると平和や人権問題も遠いことではなく、自分と関係



のあることだということがわかります。ここでは、世界はこうして繋がり、循環しているのだという様々な事例を紹介。

例えば……、

- 1 わずかな賃金の児童労働で手縫いされている「サッカーボール」、「石油やガス」を奪うための紛争、莫大なエネルギーと水を浪費し、森を伐採して作られる「輸入牛肉」。私たちの身近なものが、実は世界中で問題になっている紛争や貧困に繋がっていることを知る。
- 2 世界各地で、自分が暮らす地域の中で、食やエネルギーが循環するようになれば、無駄が少なくなり、暮らしも豊かになる。だからもう一度、自分の周りの地域を見直してみようという提案。例えば、地元で採れたものを、地元で食べる「地産地消」のすばらしさを知り、地元の食べ物食べてみる。
- 3 貧困のない公正な社会をつくるため、互いに対する敬意に基づいた貿易を行う「フェアトレード」というしくみを知る。物を選び、物を購入するとき、その選択が何に繋がっているのかをきちんと意識することも、地球市民への第一歩。



フードエリア piha workshop

ap bank fes'06の新しい試みのひとつに、ワークショップがありました参加することで、自然のことや環境のことを身体を通して体験することができます。NPO/NGOのメンバーと融資先の方々からのアイデアを形にしたワークショップ。「知る」「感じる」だけでなく、進んで、「行動する」。そんな楽しさが溢れたワークショップとなりました

7.15開催

コンパニナ涼しい空間づくり

NPO 法人緑の家学校

ポテンシャル＝自然＝人＝肌理木陰、ヒンヤリした床を自然素材でつくり、柔らかな涼しさを体験するワークショップでした。



ヒンヤリした木陰づくり

マーシャル諸島とココナッツ

マーシャル・オーシャンック・インスティテュート

南の島では身近な存在のココナッツ。昔から「生活の知恵」として島に伝わるココナッツの様々な利用の仕方を紹介しました。



マーシャル諸島についてお話しを聞きました

7.16開催

流木＆竹の木アートワークショップ 落ちていればゴミでも 手を入れれば素敵なアート エコアクション度十の会

川や海から流れ着いた流木や竹を使って、グリーンポット台を作るワークショップ。ゴミ扱いの流木も、ちょっとした工夫で価値あるものになることを知ることができました。



竹を切ってグリーンポット台づくり

口座を変えれば世界が変わる バンクをつくれれば地域が変わる

A SEED JAPAN エコ貯金プロジェクト、
全国NPOバンク連絡会

お金と環境問題の関係を見つめ、具体的に取り組みを進めているap bankの先輩達とその本質と、私たちにできるお金の取り組みを紹介してくれました。



市民バンクの先輩によるエコとお金の話

7.17開催

手漉き和紙づくり体験 ap bank オリジナル透かし入り!

いまだて遊作塾

昔から伝わる地域環境に根ざした豊かな暮らしを知るために、このワークショップでは、紙すき体験を実施。ap bank オリジナルの透かし入り和紙が完成しました。



伝統技術でオリジナル和紙づくり

フェアトレード入門 買物で世界を変える

ピープル・ツリー／フェアトレードカンパニー株式会社

楽しく買物をしながら気軽に国際貢献・環境保護に参加できるフェアトレードの仕組みを知ること、途上国の人達の生活や地球環境との「つながり」がわかるワークショップでした。



フェアトレードを深く知ることができました

3日間開催

世界のホントがみえる ○×クイズ コミュニティトレードal

世界中の人たちや未来の人類とみんなでハッピーに生きるためにどうしたらいいのか。自分で何か実践するためのヒントになりそうなことをクイズ形式で答えるワークショップを行いました。



たのしみながら参加した○×クイズ

つま恋の自然観察会

日本自然保護協会

つま恋の自然を知り尽くす自然観察指導員によるガイドで、自然の奥深さを知る自然観察ミニツアー。536種の植物や14科47種の鳥たち、柔らかい土の感触や、風の匂いを実際に体験。3日間でおよそ350人の方にご参加頂き、五感で自然を体験することの楽しさを知ってもらった事ができました。



新鮮なおどろきがあふれた自然観察会

エコレゾの余韻(オト)

ラーネット・グローバルスクール

ap bank fes'06で受け取った様々な想いを書き綴る「エコレゾ・ノート」。人から人へノートが手渡され、言葉が繋がって、ひとつの世界を作り出す。3日間で回った50冊のノートは、現在、渋谷区神宮前のkuraku(店舗詳細:www.kuraku.jp)で閲覧することができます。



それぞれノットに思いをつづりました

フードエリア piha

ap bank partners(融資先)

ap bank fesには、全国からap bankが融資を行なう団体／個人の方があつまり、展示や活動紹介を行ないます。北は青森から、南は鹿児島までの融資先が一同に集うその場所は、来場者の方に活動を紹介します、ap bankの行なう融資プロジェクトについて理解を深めてもらう場所であると同時に、融資先の方同士が、お互いの活動に感銘をうけ、熱い想いに共鳴し、つながっていくeco-resoの場所となっています。私たちap bankのスタッフにとっては、一年に一度おこなわれる同窓会のような、なつかしさとあたたかさにあふれた場所となりました。

ご参加いただいた融資先の皆様

自然エネルギー

からつ市民共同発電所を実現させる会(佐賀県唐津市)

川合弘人さん(長野県富士見市)

きょうとグリーンファンド(京都府京都市)

市民風力発電おおま(青森県大間町)

ソフトエネルギープロジェクト(神奈川県横浜市)

たんぼぼとりで(福岡県福岡市)

地球の未来(岐阜県岐阜市)

食と農

えこふぁーむ(鹿児島県大隅半島)

大石和央さん(静岡県榛原町)

小舟木エコ村百菜劇場(佐賀県近江八幡市)

コミュニティトレードal(石川県石川郡野々市)

まごころフードシステム(神奈川県横浜市)

家づくり／循環型地域づくり

いまだて遊作塾(福井県越前市)

オーガニックテーブル(東京都足立区)

小川町風土活用センター(埼玉県小川町)

芝静代さん(群馬県長野原市)

とんぼエコオフィス(千葉県船橋市)

野田塩ペコの道(岩手県野田村)

ハウス119(福岡県福岡市)

三好基晴さん／建築表示協会(神奈川県藤沢市)

新しい視点

足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ(東京都江戸川区)

ウィンローダー(東京都杉並区)

エコアクション度十の会(東京都八王子市)

かごしま市民環境会議(鹿児島県鹿児島市)

かながわアジェンダ推進センター(神奈川県大和市)

再転車活用委員会(千葉県千葉市)

スーパー・フェイズ(東京都渋谷区)

スローウォーターカフェ(東京都府中市)

ナイス・ヨコハマ(神奈川県横浜市)

ピープル・ツリー(東京都渋谷区)

マーシャルズ・オーシャンック・インスティテュート(マーシャル諸島共和国)

think waste

ごみのゆくえ ①

ap bank fes'06では、昨年のフェスで分別し計量したデータを活かし、どれだけのゴミが出るのかを予測し、「ごみもきちんとリサイクルすれば貴重な資源」という考えのもと、有効なリサイクル方法を考えました。そして、よりリサイクルを徹底し、ごみの計量を的確に行なうために、今年は去年の11分別から、13分別になりました。13分別のうち、燃えるごみ、燃えないごみを除く、11項目がリサイクルされ、昨年リサイクルできなかった紙皿や廃食用油などのリサイクルもしました。その成果もあってリサイクル率は69% (05年) から79.6% (06年) にアップ。また今年は、「ごみ箱」の名称を、「資源回収の場所」という想いをこめて「エコステーション」としました。

13分別

リサイクルされたもの

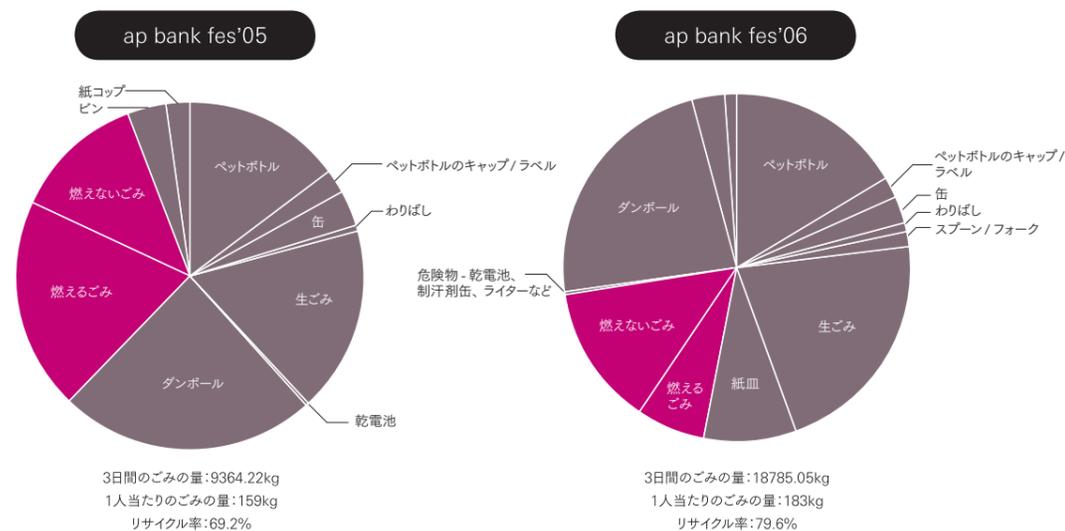
- ペットボトル(3041kg)→ポリエステル繊維となりkurkkuで製品化
- キャップ/ラベル(490kg)→RPF(固形燃料)
- 缶(430kg)→再び、缶や金属類
- わりばし(94.35kg)→再生紙

- スプーン/フォーク[木製](236.95kg)→RPF(固形燃料)、一部は炭化
- 生ごみ(4021.70kg)→バイオマスエネルギー
- 紙皿(1618.85kg)→再生紙となりkurkku^{※1}で製品化
- ダンボール[出店者のごみ](4329.85kg)→再生紙となりkurkku^{※1}で製品化
- 瓶[出店者のごみ](551.25kg)→カレット(工業用として道路などに使われるガラスくず)
- 廃食用油[出店者のごみ](141.15kg)→バイオディーゼル燃料
- 危険物[スプレー缶、乾電池、ライター](13kg)→それぞれに適正に処理/リサイクル

リサイクルできなかったもの

- 燃えるごみ(1235.6kg)→掛川市の処理場にて処分
- 燃えないごみ(2591.35kg)→掛川市の処理場にて処分

※1…kurkkuはap bankがコンセプトプロデュースを行う、フラッグシップショップです。www.kurkku.jp



計量の様子です



計量することでみえること

ap bank fes'05から、行なっているごみの計量作業。集めたごみを1つ1つ計量するのは手間もかかり、なかなか大変な作業なのですが、それをあえて行なうのには明確な目的があります。まず、大規模なイベントを行なう上での環境への負荷や消費の現状を把握すること、そして分析、管理。どんなごみがどれだけ出るのかを把握し、分析することで、今後のイベント開催での目安や改善点、目標などがみえてきて、それがリサイクルや、なるべく地球に負荷をかけないごみの分別方法の検討につながります。天気や、人数などによってもごみの量や、多く出るものの種類は左右されるものだというのが、ap bank fes'06の計量を通して知ることができました。

ごみゼロナビゲーション
『一人がうごく。社会は変わる。』

フェスティバルという非日常の空間から、日常へと戻ったときに来場者が社会を変える担い手になって欲しいという思いを込めて活動している国際青年環境NGO A SEED JAPANのごみゼロナビゲーション。ap bank fes'06では去年に引き続き、お客

こうして13分別が行われました



さんへのごみの分別をナビゲーションして頂きました。ボランティアスタッフの笑顔での対応で来場者のみなさんにも楽しく分別していただきました。

リユースカップ全面導入

何度も繰り返し使えるカップ、リユースカップ(re-use cup)をap bank fes'06では全面導入しました。このリユースカップを紙コップの代わりに全面導入したことによって、紙コップのごみがゼロになりました。去年のap bank fes'05で飲料を販売した際に使った紙コップのゴミはおよそ200kg。つまり、200kgの紙が一度利用されただけで廃棄されていました。ap bank fes'05の紙コップのごみはトイレトーパーとしてリサイクルされましたが、もっと環境に負荷をかけない方法はないだろうかと考え、A SEED JAPANの協力のもとリユースカップを導入しました。リユースカップということは洗浄などのエネルギーがかかるのでは?と疑問をもたれる方もいると思います。しかし、リユースカップは4回洗浄しても、使い捨てカップよりもエネルギー/水消費/二酸化炭素/固形廃棄物の排出量が下回る計算となっています。1日で使用したカップはおおよそ15,000個。用意したカップは全部で18690個だったので、1つのカップがこの3日間で2.4回リユースされたことにな



会場でつかわれたリユースカップです

リユースカップ洗浄風景



ります。3日間の間に紛失や破損してしまったカップも、いくつかありましたが、94%以上のカップは返却されました。お客様とスタッフが一体となって「リユース」に取り組んだ成果が実感できる結果となりました。

マイ箸、マイスプーン、マイフォーク

使い捨てのものをもっと減らしたいという思いから、イベント開催直前ではありましたが、オフィシャルホームページなどを通じて、来場者の方にマイ箸、マイスプーン、マイフォークの持参を呼びかけました。イベント当日は、会場ではマイ箸で食事がされている方の姿を多くみかけました。マイ箸を取り扱う雑貨店「スローウォーターカフェ」は飲食店の「野田塩ペコの道」と一緒に、『マイ箸をつかうと野田塩ラーメンが100円引き』というキャンペーンを実行するなど、出店側にもエコの意識が連鎖していったようです。その効果もあってか、昨年比で、来場者が15,000人増えたり、昼と夜の両方で飲食の販売をしたことにより、ごみ全体の量が2倍になってしまったのに対し、わりばしは1.25倍と、ごみの増加を抑制することができました。マイ箸、マイスプーン、マイフォークをお持ち頂いたみなさま、ありがとうございました。



マイスプーンで

think waste

ごみのゆくえ ②

ap bank fes'06の3日間で、資源として集められたごみが、どこへ行き、どうなったのか、そのゆくえを追いました。

『ペットボトル』から『ポリエステル繊維製品』へ
テイジン「エコサークル」

ap bank fes'06の会場で集められた、およそ3トンのペットボトルは、圧縮されキューブ状になった後、コンテナにつまれば、松山にあるテイジンの繊維工場に運ばれました。そこで、テイジンの完全循環型リサイクルシステム「エコサークル」によって新たなポリエステル繊維として生まれ変わりました。ap bankでは、そのポリエステル繊維の特性を生かして、kurkku^{※1}と一緒に商品開発を進めています。



1 あつめたものを圧縮

テイジンの松山工場は、松山空港をおりてすぐ。松山空港の滑走路をはさんで南と北に位置しています。168万㎡、およそ1900人の従業員が働く、大きな工場です。ここでは、ポリエステル製品のケミカルリサイクルを行なっています。ケミカルリサイクルというのは化学反応によってポリエステル製品を分子のレベルまで分解し、高純度のポリエステル原料(DMT)をつくる技術です。回収されたペットボトルは工場ですくじられ、化学処理によって分子のレベルまで分解され高純度のポリ

エステル原料になります。この工程で不純物を除去します。除去された不純物は、セメントの原料となります。ポリエステル原料は石油からつくるのと全く同じ品質になり、そこから繊維をつくりだします。こうする事によって、ポリエステルを1トン作るのに必要な0.63トンの原油と、390NM3(ノルマルリュベ)の天然ガスが節約できます。ケミカルリサイクルというのは、リサイクルの中でも一番リサイクル率が高い方法です。原料に戻すことが可能なので、同じ素材を劣化させることなく何度でも使用できます。これに対してマテリアルリサイクルというのは、たとえばコピー用紙がトイレトペーパーになったりするように、リサイクルを繰り返すたびに素材が劣化することにより、次のリサイクルが出来なくなってしまいます。最終的に、リサイクルできなかったものを、サーマルリサイクルといって、燃やして、その熱を利用します。

テイジングループの徳山工場では、ペットボトルを再びペットボトルにする事業も行なっています。



2 圧縮されてキューブ型で運搬

こんな風にフレーク状になる

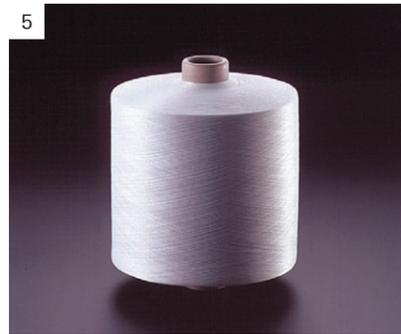


3



4 化学反応によって原料に

新しい繊維に



5

『紙皿／ダンボール』から『あたらしい紙製品』へ
大和板紙株式会社

使用済みの紙皿、ダンボールは大阪にある大和板紙株式会社の工場で、再生紙として生まれ変わりました。ダンボールの茶色など、風合いのある紙に仕上がりました。ap bankでは、それを使った紙製品の企画／制作をkurkku^{※1}と一緒に取り組んでいます。

大和板紙株式会社の工場には、通常古紙回収再生業者では引き取ってもらえないような古紙が沢山集まります。例えば、裏面にアルミが付いたお酒のパックや、しっかりコーティングされた化粧品の箱などです。ap bank fes'06で回収した紙皿も食べカスが付着しているのを洗浄して分離したのちに、機械へ投入されました。

洗浄された紙皿／ダンボールはパルパーという大きな釜に投入され、回転しながら溶かされ、さらに不純物との分離を行ない、純粋な紙の部分を残します。残った部分は液状になり、スラッシュセパレーター、精選スクリーン(スリット式スクリーン)を通過して、紙以外の異物をさらに排除していきます。そしてカレンダーという機械に敷き、出来上がった紙は平版もしくは、円柱に巻き取られた形で仕上がります。工場とはいえ、機械まかせではなく、全ての工程に人の手が関わっているので、出来上がった紙にも不思議なあたたかみを感じる事ができます。



1 会場で回収された紙皿



2 溶けた紙です



3 円柱にまきとられ、立派な紙になります

※1 kurkkuはap bankがコンセプトプロデュースを行ない、2006年6月に渋谷区神宮前にオープンしたお店で、kitchen、café、design、library、greenの5部門からなっています。

think waste

ごみのゆくえ ③

『生ごみ』から『エネルギー』へ
バイオエナジー株式会社

回収された生ごみは、大田区城南島にあるバイオエナジーで、バイオマスエネルギーに生まれ変わりました。4021.70kgのごみでおよそ900kwhのエネルギーになりました。これは、およそ90世帯分の1日の電力にあたります。

バイオエナジーとは、生ごみをメタン発酵させることでエネルギーを生み出す発電施設です。通常は、東京都内23区、多摩地区、千葉、神奈川、群馬、栃木などの飲食メーカー、百貨店、スーパー、飲食店、ホテル、コンビニ、学校、病院などで出た生ごみを回収しています。

一般的に、生ごみは燃えるごみとして処理されます。しかし、生ごみは水分を多く含み、焼却炉に投入すると燃焼効率を低下させてしまい、エネルギーを余計に使うこととなります。生ごみのリサイクル方法として、家畜などの飼料化、畑などの堆肥(肥料)化が一般的ですが、バイオエナジーでは、飼料化、堆肥化にむかない、塩分や添加物、香辛料、油分などが含まれた生ごみを処理することができます。

回収した生ごみを粉砕し、選別した後、中温(35~37℃)で、およそ30日間メタン発酵槽で発酵させることにより、メタンガスが発生する仕組みになっています。メタンガスはガスホルダーに蓄積され、発電設備に安定供給されます。発電設備は、燃料電池とガスエンジンを組み合わせたコ・ジェ

ネレーションシステム(発電時に発生した排熱も利用するエネルギー供給システム)で電池と熱でエネルギーを同時に発生させます。1日に処理できる生ごみはおよそ110トン。1日最大、24,000kwhの発電が可能です。また、生ごみは、もともと生物として、大気中の二酸化炭素を吸収し蓄積したもので、メタンガスを燃焼することで発生する二酸化炭素はライフサイクルの中で循環しているものとしてゼロカウントになるという考え方(カーボンニュートラル)から環境に負荷のかからない生物資源として注目されています。

生ごみは、私たちの生活では必ず出るもので、そのまま置いておくと腐敗し悪臭を放つため、あまり良い印象がありませんが、エネルギーとなることで、私たちの生活を支え、美しい町並みを彩る電力となります。技術と人の力によって新しい可能性が生まれると実感しました。



ガスホルダーとメタン発酵層

あつめられた生ごみ

『廃食油』から『バイオディーゼル』へ
株式会社セベック/
中駿自動車運送株式会社

フードエリアの飲食出店者から排出された廃食油は、株式会社セベックのバイオディーゼルプラントを導入している中駿自動車運送株式会社でバイオディーゼルの生まれかわり、トラックの燃料として使われています。

株式会社セベックでは、バイオディーゼルプラントを製造・販売しています。静岡県裾野市で運送業者を営む、中駿自動車運送株式会社では2005年春から、バイオディーゼル(詳しくは27ページをご覧ください)のプラントを設置し、廃食油からバイオディーゼルのつくっています。現在では、36台のトラックのおよそ1割が100%バイオディーゼルの走っているということです。通常、廃食油は配送先の地域の給食センターなどから回収しています。ap bank fes'06で回収された廃食油は141.15kg。ここから、およそ130kgのバイオディーゼルができました。

バイオディーゼル給油中

『スプーン/フォーク』から『RPF』へ
株式会社市川環境エンジニアリング
※一部はつま恋にて炭化

木製のスプーン/フォーク(170kg)は、株式会社市川環境エンジニアリングの工場にて、破碎され、廃プラスチックなどと一緒

RPFとはRefuse Paper & Plastic Fuelの略で、古紙や廃プラスチックを原料とした固形燃料のことです。高エネルギーで、燃焼効率もよいため、工場施設やボイラーの燃料として有効利用されています。また、株式会社市川環境エンジニアリングまで運搬できなかった分(66.95kg)はつま恋にある炭化装置で、炭にしてみました。出来た炭はつま恋園内の山林に散布し、地温を上げるために活用されました。

つま恋の炭化装置です

『キャップ/ラベル』から『RPF』へ
『缶』から『缶/金属類』へ
『瓶』から『カレット』へ
株式会社佐野マルカ

ペットボトルのキャップとラベルはRPF(固形燃料)となり、燃やして熱エネルギーとして使用されます。空き缶は、ふたたび金属素材に、瓶もガラス素材として利用されます。

ペットボトルと、そのキャップとラベル、どれもプラスチックなのに、なぜ分別するのでしょうか?よく見てみると、ペットボトルのラベルに2種類のマークが印刷されています。三角に「1」PETと書いてあるもの、四角に「プラ」キャップラベルと書いてある『プラマーク』の2種類です。これは、ペットボトルの包装が2種類のプラスチック素材で出来ている事を表しています。三角のPET1のマークはポリエチレンテレフタレート(PET樹脂)という素材で出来ていることを指し、四角のプラマークはポリプロピレン、ポリエチレンなどの素材から出来ていることを示します。プラマークの包装は様々なプラスチック素材が混在しているため原料に戻すリサイクルは困難となります。株式会社佐野マルカでは、これらの素材を回収しRPFにして、化石燃料の代替燃料として燃やす事でその熱エネルギーを利用しています。缶は粉砕し、溶解することで再び金属にもどり、そこから缶などの製品に生まれかわります。瓶は、粉砕し工業用のカレット(ガラスくず)となり、道路の舗装などに使われます。

think energy エネルギーについて考える

ap bank fes'06では1日25,000人が集まる大規模なステージが3日間おこなわれました。より多くの人に感動を届けられるよう、共有できる様に会場にはスピーカーや、照明、モニターなど様々な機材が設置されていました。それらの機材を動かしているのは電力。石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を使うエネルギーは、使用時に発生する二酸化炭素の環境負荷や、その資源の持続性などさまざまな問題を抱えています。ま

ライブエリアのエネルギー 「グリーン電力証書」

グリーン電力証書システムをしていますか？
グリーン電力というのは自然エネルギー、つまり風力や、太陽の光、水の力、そして生物の力を使って、原油や石炭などの化石燃料を使う事なくつくられたエネルギーの事をさします。化石燃料のように限りのある資源でないのに、二酸化炭素の排出を抑える事ができる持続可能なエネルギーです。グリーン電力証書システムでは、日本国内

にある自然エネルギーの発電所より証書を通じて電力を購入します。このイベントの様に、会場内では自然エネルギーの導入が難しいような場合、証書を購入する事によって、国内の自然エネルギー発電所で電力を代替発電してもらい、またそこで支払われたお金は、新しい自然エネルギー発電所の設置や運営に使われ、支援する事につな



がっていきます。この仕組みは、大規模なイベントだけでなく、マンションやアパートに住んでいて個人では自然エネルギーを導入する事が困難な個人の方でも手軽に取り入れる事ができます。

ap bank fes'06では、1日あたり5,400kwhのエネルギーをグリーン電力証書で購入。1日およそ3,326kgの二酸化炭素の排出を抑制できた事になります。

※二酸化炭素排出抑制量については火力平均の二酸化炭素排出係数[0.616kg-CO2/kwh]で計算しました)

※1日のライブエリアの使用電力量、5,400kwhというのはライブエリアの照明や音響にかかる電力などを若干多めに見積もった量になります。

7.15 | ライブエリアのエネルギー 風力発電

日本自然エネルギー。コムより5,600kwh購入



風車を使って発電します。風を受けてブレード(羽根)が起こす回転運動を使って発電します。風車は、個人や家庭用の小型風車も発明されていますが、大型で一度に大きな電力を生み出すものを自治体や市民の団体がお金を出し合い共同で建てるケースが増えてきました。ap bank fes'06では、ap bankも出資している秋田県の市民風車「風こまち」からまかきました。実は、この「風こまち」、ap bank fes'06初日の7月15日がデビューの日だったんです。

7.16 | ライブエリアのエネルギー バイオマス発電

日本自然エネルギー株式会社より5,000kwh購入



植物は太陽の光で光合成することで、大気中の二酸化炭素を有機物に変換して生長しています。植物やそれを食べる動物には、たくさんの有機物が含まれ、その有機物をバイオマスといい、有機物を使ったエネルギーを「バイオマスエネルギー」といいます。有機物が分解されるとガスを発生します。バイオマス発電は、燃焼時に二酸化炭素を排出しますが、その二酸化炭素は自然の循環の中で植物に吸収されるため、実質的には二酸化炭素排出ゼロとなります。ap bank fes'06では、間伐材の木くずを利用した木質バイオマス発電より電力をまかきました。

7.17 | ライブエリアのエネルギー 太陽光発電

太陽光発電所ネットワークより5,600kwh購入



太陽の光から電気を生み出します。屋根や屋上などにシリコン半導体のパネルを取り付け、その半導体に光が当たると電気が発生する仕組みになっています。光が当たるところで、常に発電する性質を利用し、電卓や腕時計をはじめ南極や宇宙ロケットなど、幅広い分野での利用が可能です。ap bank fes'06では、静岡県にある個人宅(太陽光発電所ネットワーク会員)の屋根から発電したものでまかわれています。

た、化石燃料の代替エネルギーとして使用されている原子力発電は放射線物質などの人体、環境にあたる影響が懸念されています。現代の私たちの生活には欠かせないエネルギーの使用、だからこそ、安全で持続可能なものを選んでいきたいものです。ap bank fes'06では昨年に引き続き、自然エネルギーの可能性について考えてみました。

フードエリアのエネルギー バイオディーゼル

バイオディーゼル燃料は、植物性の廃食油、菜種油、ひまわり油、大豆油、コーン油から作ることができるバイオマスエネルギーです。軽油と同じ扱いができるので、ディーゼル車や、発電機など軽油を燃料とする機械に使えます。また、バイオマスのエネルギーなので、カーボンニュートラル(植物の成長過程で光合成により吸収した二酸化炭素を発生しているもので、自然の循環の中で見ると大気中の二酸化炭素を増加させることにはならない)の考えにより、排気ガスによる環境負荷抑制が期待される代替エネ

ルギーです。ap bank fes'06ではフードエリアの発電機にてんぶら油でできたバイオディーゼルを導入。また、掛川駅からつま恋までの往復シャトルバスや、日本各地からのツアーバスなどでも一部導入しました。3日間で、4,000リットル使用し、10,560kgの二酸化炭素の発生を抑制したことになります。

※軽油を使用した場合のCO2排出量は、1リットルあたり2.64kg(軽油 2.64kg-CO2/L)となります。



二酸化炭素の抑制量

グリーン電力証書や、バイオディーゼルなどの使用により、ap bank fes'06では3日間で20,538kgの二酸化炭素(およそ1467本のスギの木の年間二酸化炭素吸収量※)を抑制したことになります。これは、グリーン電力証書の利用により11,088kgの二酸化炭素を抑制したap bank fes'05のおよそ2倍の抑制量になります。バイオディーゼルの使用を導入したことが、今年の二酸化炭素抑制量に大きく効果をだした結果になりました。より環境負荷の少ないイベントのあり方を、ap bankでは今後も考えていきたいと思えます。

※樹齢50年のスギの木1本の年間二酸化炭素吸収量を14kgとして計算しています。



昨年が続いて、つま恋で2回目の開催となったap bank fes'06。昨年できなかったことが、今年は新たに導入されたアイデアや技術により達成することができました。エココンシャスな技術や仕組みは年々増え続けています。個人がそれぞれの生活にあったエコを選ぶように、ap bank fes'06もイベントの特性や、地域性、季節にあったエコの取り組みを目指して、学び、次につなげていきたいと思っています。

羽仁カンタさん | A SEED JAPAN

FROM FESTIVALS TO YOUR LIFE STYLE.

僕らが大切にしているこのフレーズが一番実践できているのがap bank fesです。フェスで体験したことをぜひ日常で応用して欲しいですね。分別に協力してくれる参加者のみなさん。究極にごみを減らそうと様々な僕らの提案をを共に実践してくれる飲食店、スタッフ、ボランティア。全員が一体となって「eco-reso」空間が作られていたと思います。今年の成果は何と言ってもリユースカップの全面導入に尽きます。3日間で約45000個の使い捨てカップを削減することができました。3日間で1つも使い捨てコップを使用しないでフェスができました。また、紛失も少なく6%程度でした。今までに例を見ない成果をあげることができたのも、ap bank fesだったからかなと思っています。この場を借りて、すべてみなさんに感謝致します。これからも、もっともっとごみを減らせるイベントにしていきたいと思っています。

伝井真弓さん | 日本自然保護協会

地球環境を考えるには、自然と親しみ、自然を知ることが大切です。今回のfesでは、たくさんの方に身近な自然に触れてもらおうと、会場で自然観察会を実施しました。バッタを追いかけて、木や葉に触れたり、草木の匂いをかいだり、日頃あまり使っていない五感を思い切り使って、みんな自然を楽しみました。参加者の方からは、「これからは立ち止まって見てみようと思う。」という感想がありました。今回の自然観察会がきっかけとなって、家に帰ってからも、身近な自然に目を向けていただけたら、うれしいです。

葛葉むつみさん | コミュニティレド al

去年のDVDを見て、参加した方たちが口々に「ゴ

ミひろいます!」と語るレゾナンスぶりに驚き、これならもっといろんなテーマでレゾれるのではないかと可能性を感じてワークショップ「〇×クイズ」実施を申し込みました。クイズは、一度自分の頭で考えるので、トークを聞いたりするのはまた違った深まりがあります。ゲストの田中優さんの解説のおかげもあり、「もうひとつの未来」のために何ができるかを考えるととてもいい時間でした。

田中退三さん | びあ株式会社

2年目となる今年はずっとエコへの想いが伝わるように心掛けました。チケット発売のタイミングからオフィシャルグッズの素材について説明をしたり、会場にも説明文をPOP掲出したり、Tシャツの裏地にまで素材のこだわりを入れたりして、でも当日のライブ会場はまさに「エコレゾ」な空気に包まれていて、そんな細かな説明は必要ないんだと思いきりました。優しい気持ちが集まってくるような奇跡的な雰囲気になりました。会場で買ってもらったTシャツやタオルやパンフレットがそんな気持ちを思い出すきっかけになってもらえたらとてもうれしです。

中尾敏夫さん | 株式会社自然エネルギー・コム

去年に引き続き“think energy”ブースにて、フェスでも使われているグリーン電力証書の紹介させていただきましたが、今年はその紹介がとてもスムーズにできたことに驚きました。これは参加者の方が自然エネルギーにより強く共感するようになったからだと思いますが、このような方の中には、「去年も参加して、一年間自然エネルギーについて少し気になっていた」という方が多く、'05の時にこころの中に蒔かれた種が確実に育っている、eco-resoの広がりを感しました。

田中優さん | 未来バンク / ap bank 監事

今年のfesのフードエリアは、昨年よりさらに工夫が増えた。廃油がフードエリアの灯りを灯し、ただのゴミが電気や有機肥料を作り出した。小さな工夫のジグソーパズルは、ぼくらの未来を描くようだ。融資先の小さな試みは、地図にほんの小さな緑の点を作り出した。ap bankの融資した緑の点が増え、それをぼくらが宇宙から見られるら、地球はきっと緑の芝生みたいに見えるだろう。そんな未来にぼくはわくわくしていたい。

野崎衛さん | 株式会社エンヴァイロテック

2回目なるフェスに参加でき大変うれしく思っています。私たちの役割はごみを資源にしていこうと、また発生を抑制していくことです。ここで最も重要なことは皆さんの協力です。今年は昨年に増して来場者の意識の高さに驚きました。また非常にみなさん関心を持っていただきました。具体的なアクションの前にまず関心と意識を持つことが重要だと思っています。この輪をさらにもっともっと大きなものとしていきたい強く感じました。

kurkku

kurkkuは飲食と物販の2ブースを出店させていただきました。食や物という生活の視点で環境問題を考えるヒントを伝えたい、そんな意気込みで参加したフェスでしたが、私たちが気負うこともなく、音楽と歓声が運んでくる力強いエネルギーに包まれながら、お皿をお渡しする度に、ご説明をする度に、ごく自然に私たちの意識とみんなの意識が連鎖していくことに感動しました。そして、とても楽しかったです。皆さま、どうもありがとうございます！

VOICE from STAFF スタッフからのコメント

ap bank fes'06 収支報告 (06/11/13 現在)

設営・仕込み／7月7日(金)～7月12日(水)
 現地リハーサル／7月13日(木)・14日(金)
 本番日／7月15日(土)・16日(日)・17日(月)
 撤収作業／7月18日(火)

				(消費税抜き)	
チケット売り上げ		7月15日(土)～17日(月)	1日券¥9,000*73,724枚	3日券¥25,000*663枚	¥647,705,715
その他収入	物販	オフィシャルグッズ (10月1日までの通信販売売り上げ含む)			¥84,475,563
	出店収入	オーガニックフードエリア出店者ロイヤリティー、出店料			¥17,601,997
	協力金	賛同企業 (株式会社ジェイティービー、株式会社ファミマ・ドット・コム、トヨタ自動車株式会社、JR東海他)			¥22,052,500

収入合計 **¥771,835,775**

コンサート制作費	ライブエリア	舞台監督、大道具、音響、照明、映像、特効の機材費・人件費・制作費	¥160,971,083
		機材輸送費、リハーサルスタジオ費、その他備品制作費 (バス、リストバンド、配布チラシ)	¥25,666,601
		楽器テクニシャン人件費、マニピレーター、楽器レンタル費、調律費、プロンプター費	¥14,182,501
	フードエリア	大型休憩テント・各出店テント、案内看板、入場ゲート、輸送費、音響設備、設営人件費	¥50,000,000
		出店経費、出店管理経費	¥7,596,235
		環境対策 (ボランティア管理費、ゴミ圧縮機・ゴミ計量器管理費、生ゴミ処理費、グリーン電力証書代金)	¥7,952,941
現地制作費		会場費 (ライブエリア・フードエリア・楽屋エリア)	¥15,044,800
		会場設営費 (プレハブ・仮設トイレ、看板)、舞台設営費 (基本舞台・照明)、客席設営費 (バリケード)、電気工事、清掃費	¥78,189,502
		広告宣伝費 (新聞広告・テレビスポット・ラジオスポット)、公演名義料、チケット販売手数料、印刷代 (チケット・チラシ)	¥4,446,661
		アーティスト・スタッフ現地移動費 (タクシー・高速代・電車)、レンタカー (ワゴン車・大型バス・保冷車)、燃料費	¥10,181,207
		アーティスト・スタッフ食事代 (13日間／弁当・楽屋ケータリング・打ち上げ3日間)	¥15,341,375
		アルバイト (運営・設営)、警備員、医師、看護師	¥52,725,180
		著作権使用料、運営雑費 (クリーニング代・宅急便・雨具・薬など)、イベント制作協力費	¥14,301,988
出演アーティスト経費		アーティストギャランティ・諸経費 (ヘアメイク・スタイリスト含む)	¥35,629,123
移動宿泊費		移動 (出演者・スタッフ)	¥3,380,810
		宿泊 (出演者・スタッフ・ボランティア)	¥29,229,829
イベント運営雑費		保険、ホームページ制作、雑費 (打合せ交通費・備品代)、媒体取材諸経費	¥60,265,783

支出合計 **¥585,105,619**

収支 **¥186,730,156**

- 賛同企業とは、ap bank fes'06の主旨に賛同し、例えば会場内移動車の提供、物販制作協力など、ap bank fes'06のコンテンツ制作にご協力いただいた企業です。
- 鳥籠舎は企画・制作を担当いたしました。経費についてはスタッフの交通費、宿泊費分のみの計上となっております。
- この収益の約45%は税金として納付いたしますので、残りの約55%の1億270万円相当をap bankの融資原資や、持続可能な社会の実現を目指すプロジェクトの支援や、推進のため使用します。尚、第五期融資には32件のお申し込みをいただき、ap bankメンバーの他、専門スタッフによる厳正な審査を行っております。11月13日現在で融資が決定しているのは、以下9件となります。この他にも審査中の案件がありますが、審査中の案件につきましては、融資が決定期順次ホームページ上でご紹介致します。

- 有限会社エコライフ商友 (岡山県真庭市) | 融資額300万円 / 地域での循環型バイオマスシステム事業の為の特殊車両購入資金
- NPO法人きらり水源村 (岡山県菊池市) | 融資額300万円 / きくちふるさと水源交流館を拠点とした食育事業「ふるさと樂校」と「緑の幼稚園づくり」の事業資金
- 合同会社グリーンソース (埼玉県鳩ヶ谷市) | 融資額200万円 / リカベント自転車を用いた広告事業「アド・バイク」の事業資金
- NPO法人南信州おひさま進歩 (長野県飯田市) | 融資額300万円 / 温室農家ビニールハウスへの地産地消のバイオマスエネルギー供給サービスの事業資金
- ダイドック冒険学校 (山口県熊毛郡) | 融資額350万円 / 瀬戸内海に浮かぶ佐合島での、子供を中心とした「生きる力」を養う自然学校の建設資金
- 柿木畜産 (岩手県久慈市) | 融資額60万円 / 短角牛用の「おから」を使った新しい国産のエサの開発資金
- 深浸呼吸有限責任事業組合 (東京都渋谷区) | 融資額100万円 / ゴミについて考えるきっかけとなるゴミ袋の開発、事業資金
- NPO法人メイド・イン・ジャパン・プロジェクト (愛知県名古屋) | 融資額300万円 / 「自立した循環型企業の創出」を目指した日本製商品流通のコーディネート事業資金
- NPO法人太陽光発電所ネットワーク (東京都文京区) | 融資額500万円 / 佐賀県における「太陽光発電トプランナー推進事業」の事業資金
- 株式会社フィル・カンパニー (東京都千代田区) | 融資額500万円 / 駐車場の空中利用権転貸事業における屋上緑化への事業資金

融資先の詳細や、この収益の使途内容等については、<http://www.apbank.jp>にて随時公開していきますので、そちらをご覧ください。

- eco-reso協力金(eco-reso Tシャツの売り上げの5% / ¥1,964,593)は、「自然との共生」「地球市民」「持続可能なエネルギー」の3つのテーマを切り口に、現在ある問題やこれからの可能性を探る情報発信のためのメディア制作と運営に役立てていきます。www.apbank.jp/ecoreso

環境対策協力

A SEED JAPAN
 アースガーデン
 王子製紙
 掛川市
 株式会社市川環境エンジニアリング
 株式会社エンヴァイロテック
 株式会社グリーンシンク
 株式会社佐野マルカ
 株式会社自然エネルギー・コム
 株式会社セベック
 株式会社田中衡機工業所

佐川急便株式会社
 大地を守る会
 太陽光発電所ネットワーク
 大和紙板株式会社

TEAM

つま恋

帝人株式会社

トヨタ自動車株式会社

日本紙パルプ商事

日本自然エネルギー株式会社

日本トイレ協会

バイオエナジー株式会社

パタゴニア

まいど市 & 光陽の里 楽農会

オフィシャルグッズ制作 / 販売

株式会社ファミマ・ドット・コム

びあ株式会社

オフィシャルグッズデザイン

伊藤桂司 (Unidentified Flying Graphics)

片岡良輝 (realize)

GROOVISIONS

kurkku project

丹下紘希 (Yellow Brain CO.Ltd)

森本千絵

オフィシャルパンフレット制作

アートディレクション：林修三 (Lim Lam Design)

編集：川口美保 / 井上晶子

eco-reso&workshop プースの制作協力

A SEED JAPAN

イースクエア

環境エネルギー制作研究所

ピースボート

大地を守る会

NPO Birth

Be Good Café

スカベンジャー

日本国際ボランティアセンター

カエルメディア

未来バンク

日本自然保護協会

太陽光発電所ネットワーク

アースデイ東京実行委員会

green bird

アースデイマネー・アソシエーション

スローウォーターカフェ

サステナ

明鏡止水 /INA

宮城香織

足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

オックスファム・ジャパン

ランネット・グローバルスクール

retired weapons

融資先の皆さま

special thanks to…….

ap bank fes' 06 にご来場いただいた皆さま

ap bank fes '06

Environmental
Report



ap bank fes'06

2006年7月15日(土)、16日(日)、17日(月・祝)

つま恋(静岡県)：多目的広場(ライブエリア)／スポーツ広場・第二多目的広場(フードエリア)

開園●8:30(つま恋ゲート)／開場●10:00(ライブエリア・フードエリア)／開演●14:00(ライブエリア)

終演●19:30／閉園●22:00(つま恋ゲート)

主催：ap bank

企画・制作：ap bank／OORONG-SHA

ap bank fes'06 運営事務局

www.apbank-ecoreso.jp

www.apbank.jp